

【特別講演】

11月17日（日） 9：30～12：00 退行受容的な治療の可能性—言語であっても絵画であって—

講師 北山 修（北山精神分析室）

司会 寺沢 英理子（広島国際大学）

数十年前の力動的臨床で、セシュエー夫人、バリントやウィニコット理論が援用されて退行促進的な治療が盛んに行われたことがある。あの時代は絵画療法と精神分析的心理療法は相互に乗り入れていたが、その後は解釈中心の精神分析と非言語的アプローチとは乖離する傾向にある。私は「言語以前」と「退行受容」の可能性を十分に認めて、両者の間にある、重複する豊かな領域について報告したい。